

フット・ア・セット ガイドブック

Foot à 7



特集

スペシャルメッセージ

フィリップ・クヴィドゥ (FSGT フット・ア・セット責任者)

Foot à 7



審判がない
線審もない
タックルもスライディングもない
オフサイドもない
いつでも自由にメンバー交代
反則をしたなと思ったら自分で申告
もめたら話し合い？
そんなサッカーがおもしろい

フェアプレイ宣言

—スポーツの真の発展のために—

近年、わが国のスポーツ界において、暴力・しごき、金銭・人事をめぐるトラブル、大麻所持事件などが頻発し、スポーツに対する社会的な信頼が揺らいでいます。また、プレイの場面においても、ルールの無視やルール違反まがいの風潮が広がっています。こうした事態は、スポーツの発展に逆行するだけでなく、スポーツの存在意義を内部から突き崩す憂慮すべき問題です。

スポーツは本来、人間がより人間らしく発達するために、また生活をより豊かに向上させるために、人類が生みだしたかけがえのない文化です。個人のレベルでは健康と楽しみをもたらし、技術の習得と能力の発揮による自己表現、達成感、そして他者との交流と連帯を創り出します。社会レベルでは、社会関係を豊かにし、諸国民間の相互理解と友好を促進し、平和に貢献します。

フェアプレイ精神は、なによりもスポーツの競技において、ルールに基づき公正に振る舞い、自己の最善を尽くし、相手に対等の仲間として尊重することから始まります。このフェアプレイ精神を発揮することは、スポーツの価値を高め、スポーツの真の発展に貢献します。フェアプレイ精神はスポーツの価値の核心をなし、明記されたルールの範囲でプレイすることを越えた意義を持っています。さらにフェアプレイ精神は、競技場だけでなく社会において発揮することによって人々を人間的にも成長させます。

スポーツへの政治の介入や過度な商業主義的利用を規制し、フェアプレイ精神を擁護し発揮することは、スポーツ団体・指導者・選手・スポンサー・メディア・観客などスポーツに関与するすべての人々の共通の責務となっています。

創立以来、スポーツを国民の基本的権利とスポーツの文化的荒廃を正すことに取り組んできた新日本スポーツ連盟は、あらためて、自らのすべての活動においてフェアプレイ精神を発揮することを宣言します。同時に新日本スポーツ連盟はあらゆるスポーツ関係者が「フェアプレイ精神によってスポーツの未来を拓く」ために、協力・共同することをよびかけます。

2009年2月15日 新日本スポーツ連盟

目次

フェアプレイ宣言	2
フット・ア・セットとは?	4
競技規則	6
基本理念	
規則1－競技用コート	
規則2－使用ボール	
規則3－プレーヤー人数	
規則4－プレーヤーの装備用具	
規則5－メディアラー	
規定6－審判	
規定7－試合時間	
規定8－キックオフ	
規定9－インプレー・アウトオブプレー	
規定10－得点	
規定11－オフサイド	
規定12－反則と不正行為	
規定13－フリーキック	
規定14－ペナルティーキック	
規定15－タッチラインからのインプレー	
規定16－ゴールキック	
規定17－コーナーキック	
よくある質問	16
特集「フィリップからのメッセージ」	18
日本におけるフット・ア・セットの歴史	20
お問い合わせ先	22
2009年度の大会情報	23
Editor's voice	24

フット・ア・セットとは？



フット・ア・セットとは？

仏語：Foot à sept (“7” という意味)

日本語：7人制サッカー

誕生地：フランス セーヌ・サン・ドニ県 (オーベルヴィリエ市)

発祥時期 (仏にて)：1968 年

発祥時期 (日本にて)：2003 年

競技拡大地域：日本、アルジェリア、パレスチナ、
デンマーク、コスタリカ、イタリ
ア etc

←セーヌ=サン=ドニ県



競技人口 (於：仏)：約20000 人、約2000 チーム

※FSGT に加盟している人口・チームを示す。

誕生の由来：1968 年頃、工場のストの間に 11 人制サッカーコートで 7 人制サッカーをし始めたのが始まり。1970 年には 7 人制サッカーのリーグ戦も始まり、同時にセルフジャッジも導入となる。FSGT がその活動とセルフジャッジの精神に感銘を受け、FSGT とともに 7 人制サッカーがフランスだけでなく世界に拡大し始めた (2000 年に入り拡大は活発化)。

セルフジャッジ開始の動機・・・

「友人たちが審判をしたり、野次を飛ばしあっているよりもプレーすることを好んだ」

～『フット・ア・セット パンフレット』(2008 年 FSGT 発行) より仏語直訳

FSGT フット・ア・セット理念

フットアセットでは、プレーする喜びと友情の精神が結果よりも優れています。セルフジャッジにより、選手たちは自分たちで公正な試合展開を遂行し、それを保証します。各選手が、相手なしに試合が成り立たないことを意識する条件を作り出します。チームメイトに加えて、相手チームの選手たちは自分がプレーし上達することを手助けしてくれる仲間たちであるのです。

新日本スポーツ連盟のフット・ア・セット理念

「いつでも、どこでも、誰でも」の新日本スポーツ連盟理念に準ずる。

フット・ア・セットとは……

セルフジャッジにより審判に対する暴言や不満を無くし、自分たちのプレーに責任を持たし、接触プレーが減ることにより怪我の恐れが減り、そうすることで参加する楽しみが増えるスポーツであり……短時間で少人数ではあるがボールに触れる回数とプレーできる時間が増えて、各プレイヤーの満足感を得られるサッカーのことである。

FSGT (フランス労働者スポーツ・体操連盟)

- (1) **設立**：1934年。今年で75周年。
- (2) **組織の基本性格**：フランスにおける国民（労働者）スポーツの推進団体で最大のスポーツ組織。
- (3) **組織人数**：約4000クラブ、250000人。地方組織が基本。その元に地域クラブ、企業クラブが加盟。各種目組織は「専門部」的な位置づけ。サッカーが多い。
- (4) **財政**：80%が会員の会費、17%が国の補助、3%がスポンサー（06年時点）。
- (5) **活動理念**：「勝つことだけでなく、みんなのためのスポーツ」
- (6) **その他**：
 - ①本部はパリにあり、ビルの15階と12階に専従職員40名、地方組織は約100名の専従職員が働いている。
 - ②フランスオリンピック委員会へ1名の理事を送っている公認団体。



基本理念

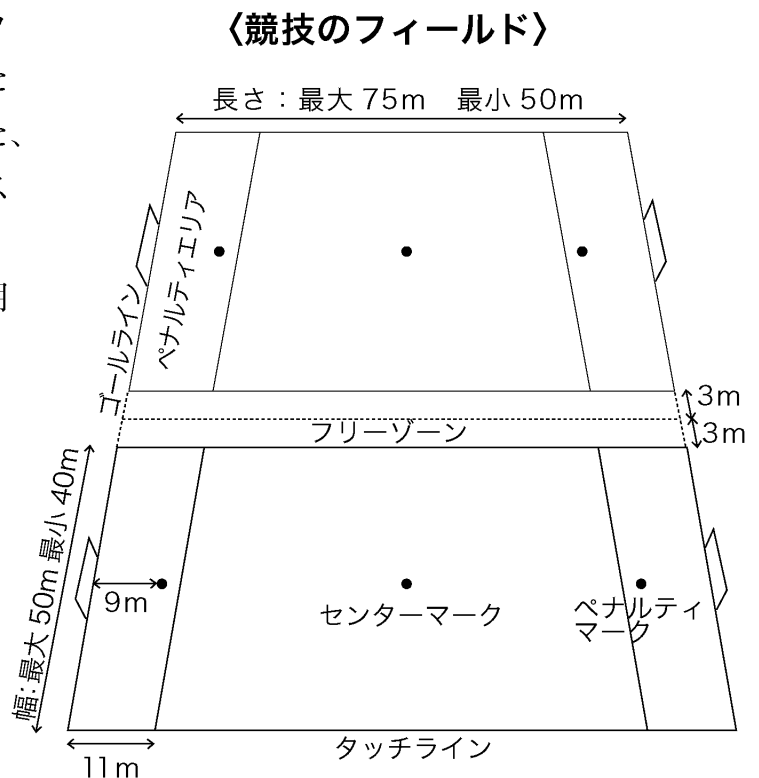
何よりもサッカーを楽しむ事を主眼とし、全ての選手がフェアプレー精神を発揮できる事を目的とします。

規則 1 – 競技用コート

競技用コートは以下の寸法による長方形である：

- *長さ：50～70m
- *幅：40～55m
- *ペナルティーエリア：11m
- *ペナルティーマーク：9m
- *ゴール：小学生用ゴール（5m×2.15m）が望ましい

実際には、11人制サッカーコート二等分したコートを使用する。また、両コート間にスペースを設ける。
※小学生用コートの代用も可



規則 2 - 使用ボール

小学生は 4 号球、中学生以上は 5 号球のサッカーボールを使用する。

規則 3 - プレーヤー人数

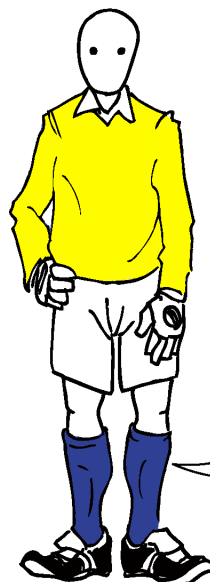
試合は両チーム 7 人ずつ（キーパー 1 人を含む）によっておこなわれる。
選手交替の制限はなく、試合中何度でも、またいつでも自由に交替できる。
退場する選手は、交代選手と自陣ゴールライン上で入れ替わる。
試合をおこなうのに最低限必要なプレーヤー人数は 5 人。4 人以下になると不戦敗となる。

規則 4 - プレーヤーの装備用具

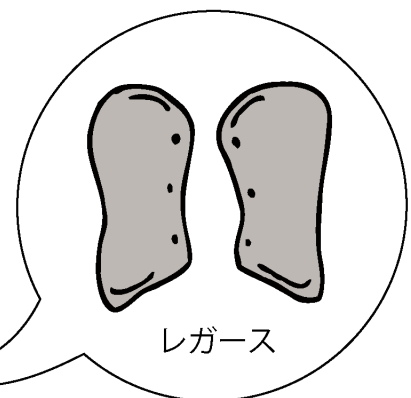
チームの全ての選手はキーパーを除いて同じユニホームを着用する。キーパーは、対戦する両チームのフィールドプレーヤーが着用するユニホームと見分けられる色のユニホームを着用する。
レガース（すねあて）は必ず装用するようにする。
すべての装飾品を身につけることは禁止する。



フィールドプレイヤー



キーパー



レガース

規則 5 – メディアラー

○メディアラーの役割

両コート間に設けられたフリーゾーンに位置し、主にタイムキーパーを行うと共に、試合を観察し、対戦チーム同士の争いがあった場合、両チームの要請によって仲裁をする事が出来る。試合はメディアラーの立ち会いの元、自主判定によって行われる。

○自主判定

全ての選手が審判である。反則をした選手はプレーを止めて合図をする。実戦ではしばしば反則を受けた選手やそのチームメイトで近くにいた選手が合図する。反則の同意の元にゲームを中断し、反則に準拠した判断の元にゲームが再開される。

○補則

メディアラーの介入をすぐに要請するのではなく、自分たちで試合をコントロールし、解決する努力を選手に期待する。本来、フットアセットにおいてメディアラーの介入が一度もないことが最も望ましい形である。

規則 6 – 審判

審判（副審）はつかない。

規則 7 – 試合時間

試合時間は 15 分ハーフを基本とする。但し、大会規定を優先する。